

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	ライフステージ別がんリハビリテーション習得コース（インテンシブコース）
対象者	医師、リハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）、その他（看護師、医療ソーシャルワーカー、ケアマネージャーなど）
修業年限（期間）	①2週間コース、②3か月コース
養成すべき人材像	がんリハビリテーションに関して、ライフステージごとに異なる知識・スキルや病期（急性期、回復期、地域生活期）に応じた実践方法の習得を含めた体系的な教育プログラム・コースを構築し、本分野における指導的役割を担うリーダーを育成する。
修了要件・履修方法	・本コースで定める科目について、8割以上を履修し、試験に合格すること。
履修科目等	<p>①2週間コース（すべて必修） 臨床実習（静岡がんセンター、慶應義塾大学病院）：38時間、がんリハビリテーション（総論・各論）講義：4時間、症例検討（発表）：3時間、グループワーク：6時間、カンファレンス参加：3時間</p> <p>②3か月コース（すべて必修） がんリハビリテーション（総論・各論）講義：8時間、症例検討（発表）：4時間、グループワーク：4時間</p>
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年12月に改定された、がん対策基本法では、第17条に、「がん患者の状況に応じた良質なリハビリテーションの提供が確保されるようにすること」が追加され、国や地方公共団体においても、がんリハビリテーションに関する施策を推進する方針となった。しかしながら、我が国においては、がん専門医療機関においてすら、がんリハビリテーションが十分実施されているとはいえない。 ・第1期・第2期がんプロにおいても、がんリハビリテーションのコースは、本大学、京都大学、神戸大学のみであり、第3期がんプロにおいて、しっかり推進すべき分野であると考える。 ・本コースでは、がん患者のライフステージや病期、療養先のセッティング別に、がんリハビリテーションを体系的に学べるという点で新規性がある。 ・我が国で数少ないがんリハビリテーションに関するコースとして独創性がある。
指導体制	<p>担当教官：辻 哲也（慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 准教授）</p> <p>指導補佐：田沼 明（慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室 非常勤講師）</p>
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	本コース終了後は、所属先施設の地域において、がんリハビリテーションの普及・啓発、教育に関して指導的役割を担う人材となることを期待する。」また、本大学大学院修士や博士課程に進学し、さらに研鑽を積むきっかけとなることも期待している。
受入開始時期	平成29年10月

受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	1	1	1	1	1	5
	リハビリテーション 専門職	4	4	4	4	4	20
	その他	1	1	1	1	1	5
	計	6	6	6	6	6	30